

## 「実践コミュニティについて」が開催されました

### 実施報告

**日時:** 2010年5月17日(月) 11:50 ~ 12:30

**場所:** 東海大学湘南キャンパス  
8号館3階プロジェクト会議室

**司会:** 尾崎由佳(チャレンジセンター専任講師)

**内容:** 1. 実践コミュニティづくりの取組紹介  
~持続的なプロジェクト活動を支えるために~  
堀本麻由子(チャレンジセンター特任講師)  
2. 質疑応答



### 実践コミュニティづくりの取組紹介~持続的なプロジェクト活動を支えるために~

堀本麻由子(チャレンジセンター特任講師)

チャレンジセンターのプロジェクトを持続可能な活動にしていく上での参考事例として、プロジェクトが相互に学び合い、かつ実践知を共有できるような「実践コミュニティ」の説明と事例紹介が行われた。紹介されたのは、お茶の水女子大学・福井大学・早稲田大学・宇都宮大学が共同で開催している実践研究ラウンドテーブルである。ここでは、さまざまな分野の実践者が職場や地域において自ら実践をふりかえり、次の実践に活かしている。また、少人数のグループで、実践者は試行錯誤の過程をじっくりと語り、グループ内のメンバーは傾聴を通じて、実践を共同で探求できるコミュニティづくりに取り組んでいる。このような事例をプロジェクト活動に応用し、実践の展開を語る場や仕組みを設けることにより、経験知・実践知を継承していくことが可能となる。具体的な方法としては、プロジェクト報告会を実践ラウンドテーブル形式で実施することなどが提案された。



### 質疑応答

Q. 実践コミュニティは何を目的にしているのか。また、どのような利点があるのか。

A. 語ることで実践者が成長し、組織に戻ったときに成果を出すことを目指している。また、参加者全員が意識を共有できる利点や、フェイス・トゥ・フェイスでしか伝わらない暗黙知を伝承していくという利点もある。なお、このような利点を見込んで、企業でも活用された例がある。

Q. 目的を共有する人同士がグループを組むのか。

A. そうとは限らない。さまざまなバックグラウンドと問題意識を持った人々が参加している。逆に、多様性から有益な学びがある。

Q. 雑談のように経験談を語るような形式なのか。

A. もっとフォーマルに行われる。実践者は自らの活動をレジюмеにまとめて参加者に配布し、それをもとに2時間ほどかけてじっくりと語る。